

1. 2022 年度事業報告総括表

		2020～2024 中期計画	2022 年度 計画	
		【取組方針】 改めて、渋沢栄一を問う 環境の変化に伴い渋沢栄一の評価も変化してきている状況下において、現代と当時の行動、生き方、考え方を改めて問いたす	未来ある人々に向けて ・道徳経済合一説、リーダーシップなど、現代に通じる実践の普及 ・フィランソロピーなど、改めて再評価	
			計 画 事 項	事 業 報 告
公益事業 1	研究センター	渋沢栄一再考に向けての研究促進	研究成果の出版	渋沢栄一と「フィランソロピー」第6・7巻 出版記念学術シンポジウムの実施 渋沢栄一と「フィランソロピー」第3巻の編集が終了 2023年5月上旬刊行予定
			『論語と算盤』の英訳	2023年3月22日に打ち合わせを実施 2025年度前後の刊行を目指し進行中
		啓発事業の企画・運営	論語とそろばんセミナー	「論語とそろばん」セミナー： オンラインで実施 配信期間は2023年3月1日～3月31日 第11期『論語と算盤』読書会： オンライン・対面と両方の形式で実施 経営者インタビュー： 2022年8月22日に富山和彦氏にインタビューを実施
			協賛・助成・支援事業	協賛： 第39回渋沢・クロード賞 支援事業： 経営史学会紀要の英語版 Japan Research in Business History の出版支援 華中師範大学寄附講座： 2022年12月10日～11日にオンラインシンポジウムを実施
公益事業 2	情報資源センター	社史プロジェクト	実業史関連情報資源の開発・提供	「渋沢社史データベース」(データ約13,000件追加など) / 「渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図」(新規4図、改訂13図など) 更新ほか
			ビジネス・アーカイブズの振興	「世界/日本のBA」記事追加/メールマガジン「BA通信」4回配信・ウェブサイト掲載/専門図書館協議会全国研究集会・企業史料協議会セミナー登壇ほか
		実業史錦絵プロジェクト	実業史錦絵等の収集・情報資源化	「実業史錦絵引」維持管理/渋沢栄一関連絵葉書公開準備開始
		渋沢関連情報資源の開発	渋沢栄一関連文献の情報資源化	『渋沢栄一伝記資料』英訳網文(第8・9巻)公開/『論語と算盤』再版デジタル化(画像・テキスト)・財団内公開
			既存のデジタルアーカイブやデータベースの更新・整備	デジタル版『渋沢栄一伝記資料』更新/「渋沢栄一ダイアリー」機能追加・外部との連携/「渋沢栄一フォトグラフ」国際学会等で報告・北区「青淵義塾」等で活用ほか
公益事業 3	史料館	展示活動	常設展、企画展の実施	常設展示「渋沢栄一を知る」の展示替え 「書画書簡」を展示 企画展「一点一話」/開館40周年企画展「渋沢史料館ポスター〈あれこれ〉」/企画展「渋沢栄一と渋沢喜作の「明治」/「渋沢家のおひな様」/「鮫島純子さん作品紹介」
		普及活動	渋沢栄一に関する教育普及活動の実施	晩香廬と青淵文庫の建物解説会/渋沢栄一の命日特別企画「青淵忌」/「渋沢史料館ポスター〈あれこれ〉」展関連トークイベント/全国各地で開催されるなどした日米人形交換事業関係イベント等に協力/大学、小学校、その他団体からの出講依頼に対応
		資料収集・保存	資料収集、整理、代替資料の作成 収蔵庫内の環境維持	栄一に関する書簡、書籍、美術工芸品の購入/栄一に関する資料寄贈受入/フィルムや美術工芸資料の整備、資料複製/資料燻蒸、収蔵庫・展示施設等館内環境調査清掃
		調査・研究	渋沢栄一関係や博物館活動の調査研究活動	オーラルヒストリーの実施/『徳川慶喜公伝』研究/デジタル対応/他館の視察： 賀川豊彦記念松沢資料館、三井記念美術館他12館/『渋沢史料館年報』、『渋沢研究』の刊行
雑誌刊行		「青淵」の刊行		
会員・支部支援		会員総会の開催、支部講演会の支援など		会員総会は中止、支部講演会は4支部で開催
関連事業		財団全体の広報など		外部団体への協賛、後援、協力

2. 公益事業 1（研究センター）詳細報告

① 研究成果の出版

シリーズ出版『渋沢栄一と「フィランソロピー」』（全 8 巻）に 2016 年度から取組んでおり、2022 年度は第 3 巻（地域振興）の編集・校正を終え、2023 年 5 月上旬に刊行。また、2021 年 4 月刊行の第 6 巻（人づくり）と 2022 年 4 月刊行の第 7 巻（宗教）につき、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施を見送っていた出版記念学術シンポジウムを両巻合同という形で 2022 年 11 月 4 日、国際文化会館にて、対面・オンラインのハイブリット形式で行い、126 名の参加者を得た。また、シンポジウム終了後には期間限定のアーカイブ配信を実施した。

2023 年度刊行予定の第 4 巻（福祉）、2023 年度刊行予定の第 8 巻（文化）ともスケジュール通りに進行している。

② 『論語と算盤』の英訳

本件は、主に日本企業に勤める外国人や海外の研究者を対象に、日本の実業界やビジネス社会の考え方、また、日本の資本主義のあり方や経済・経営思想を、渋沢栄一の『論語と算盤』を通してグローバルに広く周知することを目的としている。

刊行は、新紙幣発行など渋沢への関心の高まりが見込まれる 2025 年度前後を目指す。2022 年度から、中国古典に精通し、トロント大学倫理研究所での研修経験も積まれた守屋淳氏の協力を得て、英訳にするための日本語を作成開始。

③ 論語とそろばんセミナー

a. 「論語とそろばん」セミナー

セミナーは、昨年度と同様に、2 つの講演と経営者インタビューで構成し、受講者の都合に合わせて参加できるよう 2023 年 3 月 1 日から 3 月 31 日までの間、ネット配信した。受講者は、関東圏にとどまらず、北海道、新潟県、愛知県、大阪府、岡山県といった遠方の地域や海外ではイギリスからの参加を得た。

講演 1 松本和明氏（京都産業大学）：渋沢栄一と各地の企業家群像、そして彼らとのネットワークの構築、渋沢栄一の日本各地で関わった近代化・工業化への貢献について

講演 2 北康利氏（作家）：渋沢栄一を現代において改めて学ぶ意味を、安田善次郎や白洲次郎、松下幸之助など北氏がこれまで評伝に記した人物と照らし合わせながら再考し、渋沢栄一の評価を試みるもの

経営者インタビュー 大山健太郎氏（アイリスオーヤマ株式会社代表取締役会長）：2022 年度に第 20 回渋沢栄一賞に選ばれた同氏より、「生活のニーズ」というユニークな視点から展開される新商品や新事業のエピソード、アイリスオーヤマ独自の取り組みについて語られ、日本企業が再生するためのヒントなど示唆に富んだ内容となった

b. 『論語と算盤』読書会

渋沢栄一の著書『論語と算盤』を毎月 2 章ごと読み進め、参加者同士でディスカッションを行うもので、第 10 期（2021 年 9 月～2022 年 7 月、全 11 回）はオンライン形式で実施し、参加者 46 名で開始し修了者 30 名で終了した。

第 11 期は、オンライン、対面とそれぞれの形式による実施を望む声が多く、実験的にこれまで約 1 年（全 11 回）かけて行ってきた読書会を半年 6 回に 2 分割し、オンライン形式を 2022 年 9 月～2023 年 2 月まで参加者 28 名（うち修了者 22 名）で実施、対面形式を 2023 年 2 月～2023 年 7 月まで北とぴあ会議室にて参加者 26 名で実施中。

c. 経営者インタビュー

「論語とそろばん」セミナーの経営者インタビューとは別に、2022 年 8 月に富山和彦氏（株式会社経営共創基盤代表取締役 CEO）へインタビューを実施。経営において「論語と算盤」をどのように両立させるかという課題に関して自身の経験談を交えて語られた内容を『青淵』2022 年 12 月号に掲載。

④ 協賛・助成・支援事業

a. 渋沢・クローデル賞

日仏会館の創立者である渋沢栄一とポール・クローデルを記念し、日仏両国において、それぞれ相手国の文化に関してなされた若手のすぐれた研究成果に対して贈られるもので、当財団は 1984 年の創設当初より協賛。

2022 年度第 39 回受賞者は、日本側が船岡美穂子氏（本賞）と金山準氏（奨励賞）、フランス側はダミアン・プラダン氏が受賞。日本側の表彰式・受賞記念講演会は 2022 年 7 月に日仏会館にて実施。フランス側は 2022 年 11 月にパリ日本大使公邸にてレセプションを実施。

船岡美穂子氏『ジャン＝シメオン・シャルダンの芸術—啓蒙の時代における「自然」と「真実」—』の著作

金山準氏『プルードン 反「絶対」の探求』の著作

ダミアン・プラダン氏「大規模倭寇の時代—変遷する東シナ海の流通—1350 年から 1419 年を中心に」の博士論文

また、コロナ禍によって実施できていなかった 2021 年度第 38 回フランス側受賞者の記念講演を、2023 年 1 月にセザール・カステルビ氏、2023 年 3 月にエドゥアール・レリッソン氏、それぞれ日仏会館にて実施。

b. 支援事業

経営史学会紀要の英語版 Japan Research in Business History の出版を引き続き支援。

c. 華中師範大学とのシンポジウムの共催

2022 年 12 月 10 日、11 日と 2 日間に渡りオンライン形式で実施。華中師範大学元学長、中国近代史研究者・故章開沅氏の追悼記念として、華中師範大学と共催で企画・運営を担い、日本、中国、イギリス、アメリカの学者 34 名にて、日中企業家精神と企業史比較に関する報告、討論を行った。

3. 公益事業 2 (情報資源センター) 詳細報告

① 実業史関連情報資源の開発・提供

a. 渋沢社史データベース

渋沢栄一関連会社を中心とする各社の「社史」の内容を、目次・索引・年表・資料編といったデータから検索できるようにするもので、渋沢栄一の事績に加え、渋沢を取り巻く実業界などの情報が現代に至るまで搭載されている。2022 年度は近年刊行された東海汽船、若築建設、鹿島建設などの社史に加え、『日本勸業銀行創業十年志』(1907 年) のデータなど約 13,000 件を追加するとともに、既存データ約 12,000 件の修正も行った。収録社史は 1,625 冊、総データ数は約 252 万件に拡充され、2022 年度のアクセス数は約 173 万回に達した。また、国立国会図書館が運営する分野横断型統合ポータル「ジャパンサーチ」との連携を開始した。

b. 渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図

渋沢栄一が関与した企業や団体の現在に至る変遷をチャート図により視覚化し、現代社会とのつながりを明確にするもの。2022 年度は慶應義塾、同志社、跡見学園などを含む教育関係の 4 図を新規に追加してフィランソロピー領域の充実を図るほか、横浜正金銀行などを含む 13 図の改訂や 60 件以上の新規名称を追加し、情報のアップデート等を行った。

② ビジネス・アーカイブズの振興

「ビジネス・アーカイブズの振興」は「アーカイブズは倫理に関わる」ということを前提に、渋沢栄一の「道德経済合一説」を現代の視点から実践をうながす事業である。

a. 「世界／日本のビジネス・アーカイブズ」

組織アーカイブズとは何かを解説する「"活用"を通して組織アーカイブズの価値を探る：企業を中心に」をウェブサイトに掲載し、改めてビジネス・アーカイブズの理解を促した。

b. メールマガジン「ビジネス・アーカイブズ通信 (BA 通信)」

企業史料管理とビジネス・アーカイブズに関する海外情報を分かりやすい形で紹介するもので、2022 年度は 4 回の配信・ウェブサイト掲載を行った (3 月末の購読者数：937 名)。ヨーロッパ、インド、アメリカの行事や文献などを紹介するほか、国際アーカイブズ評議会ビジネス・アーカイブズ部会 (ICA/SBA) や日本の企業史料協議会など関係諸団体の動きを発信した。

c. 関連団体での活動

専門図書館協議会では「2022 年度全国研究集会」で情報資源センターのアーカイブズ関連事業を紹介するとともに、「組織アーカイブズとは何か」に関する講演を行った。企業史料協議会では「第 11 回ビジネスアーカイブズの日」と「『らしさ』とアーカイブズ勉強会」(全 3 回) を企画し、モデレーターなどを務めた。第 3 回勉強会では渋沢栄一関連会社となる東京海上日動火災保険株式会社の図書史料室が発表を依頼し、同室所蔵の渋沢栄一関連資料も紹介され、中期計画にある「企業に眠る栄一関連

資料の発掘」につながった。

③ 実業史錦絵等の収集・情報資源化

渋沢敬三の「日本実業史博物館」構想による収集資料中、際立って特徴的な錦絵や、その後継資料となる絵葉書という視覚的な資料に焦点を当てる事業である。2022 年度は「実業史錦絵絵引」の維持管理が中心となったが、渋沢栄一関連絵葉書コレクションの公開準備を開始した。

④ 渋沢栄一関連文献の情報資源化

a. 『渋沢栄一伝記資料』の網文英訳

渋沢栄一関連情報の国際的な発信の充実・強化を目指し、『渋沢栄一伝記資料』（以下『伝記資料』）第 8 巻および第 9 巻の英訳網文を公開し、第 2 編第 1 部第 2 章「交通」までの網文が英語で利用可能となった。

b. 『論語と算盤』再版（東亜堂書房, 1916.09）のデジタルアーカイブ化

インターネットを介して公開することを目指しているが、2022 年度は、再版本のデジタル化（画像化／テキスト化）が完了し、準備段階として財団内イントラネットで公開した。画像化では書籍本体だけではなく、2008 年の復刻版では再現されなかった外函と背表紙もデジタル化した。テキスト化では巻末広告を除く凡例から奥付までのテキストが整った。

⑤ 既存のデジタルアーカイブやデータベースの更新・整備

a. デジタル版『渋沢栄一伝記資料』

全文公開へ向け著作権調査を継続し、その成果により『青淵先生世路日記雨夜物語』『渋沢倉庫株式会社三十年小史』『大日本蚕史』などが公開され、引用資料公開件数は 34 件増加した。また、北区の官民連携事業の市民講座「青淵義塾」や順天中学校・高等学校の「Global Week」に講師を派遣し、デジタル版『伝記資料』の活用を指導し、普及・活用促進を図った。

b. 「渋沢栄一ダイアリー」

『伝記資料』別巻第 1・第 2（日記・予定表）を公開する「渋沢栄一ダイアリー」の検索機能を大幅に強化し（正規表現、Ngram Viewer）、「日本実業史博物館コレクションデータベース」（国文学研究資料館）との連携などにより、当時の人間関係や行動などについて『伝記資料』のテキストからだけでは読み取りにくい情報を得られるようにした。また、『人文学のためのテキストデータ構築入門』（文学通信, 2022）に「TEI を用いた『渋沢栄一伝記資料』テキストデータの再構築：「渋沢栄一ダイアリー」公開まで」を寄稿し、同書はデジタルアーカイブ学会第 4 回学会賞・学術賞（著書）を受賞した。

c. 「渋沢栄一フォトグラフ」

『伝記資料』別巻第 10「写真」を公開する「渋沢栄一フォトグラフ」は国際学会などでの発表、「青淵義塾」や順天中学校・高等学校の「Global Week」での活用等により、普及を図った。特に「青淵義塾」では、『伝記資料』に掲載された過去の写真と受講者が撮影した現在の写真を比較するという内容が渋沢栄一の事績の理解につながったほか、市民生活の中でデジタルアーカイブが活用されたことにより、中期計画の目標に記載した「デジタルアーカイブ社会」の実現に貢献した。

d. 参考文献資料の拡充など

2022 年度は渋沢栄一・実業史関連文献 322 点を収集、書誌データ 2,387 点を作成し 2,407 点の資料を蔵書データベースへ登録、作成データから「渋沢栄一関連文献」新着リストに 1,774 件の情報を掲載し情報資源の基盤強化を図った。また、資料保存対策として 127 点の文献資料を専用の保存箱（ISO 16245:2009、ISO 9706:1994、ISO 18916:2007 準拠）に収納、あわせて史料館等と連携して収蔵庫・書庫の安定的な保存環境の整備を目指した。その他、渋沢史料館の展示記録作成（9 件）、財団内外からの各種レファレンス対応、国立国会図書館主催イベントでの登壇を含むセミナー・学会への参加・聴講などを行った。

4. 公益事業 3（渋沢史料館・総務 G）詳細報告

① 常設展、企画展の実施

渋沢史料館は 2022 年度に開館 40 周年を迎え、新型コロナウイルス感染症の影響下、在館者数が密にならないように管理しながら、入館者数の合計は 31,795 名と、現在の本館オープンの上の年以上の来館者となるとともに、1982 年に開館して以来、最も多い来館者を迎えることができた。2023 年 1 月には累計 60 万人となる入館者を迎え、記念としてミュージアムグッズセットを渋沢史料館館長から贈呈した。

a. 常設展

渋沢栄一をひも解く常設展示の 3 つのテーマ「たどる」「ふれる」「知る」の一つである「知る」は随時展示替えを行い、「たどる」や「ふれる」の内容を深めたり、新たなテーマを設定し栄一の幅広い活動を紹介している。2022 年度は、鉄道開業 150 年、日本に野球が伝来して 100 年を迎え、栄一と鉄道開業、野球との関わりを紹介した。また、第一次世界大戦下、アルメニア難民への栄一の支援活動に対し、2021 年にアルメニア共和国大統領から「ヘンリー・モーゲンソーメダル」が授与されたことから、その紹介を兼ねて栄一と難民救済との関わりを取り上げた。また、渋沢史料館開館 40 年を迎え、「渋沢史料館 40 年のあゆみ」を取り上げ、4 つのテーマで展示替えした。それから、第一国立銀行創立 150 年を記念した「知る」の展示替え準備を行なった。

企画展示室、青淵文庫で渋沢栄一の書画、書簡を展示した。

b. 企画展

渋沢史料館開館 40 周年企画展として、2022 年 4 月 9 日～6 月 26 日には「一点一話」を、10 月 1 日～11 月 27 日には「渋沢史料館ポスター〈あれこれ〉」を開催した。前者は、当館所蔵品・寄託品の中から栄一に関する美術工芸品を選びすぐり、一堂に展示した。後者は、当館が開館以来、企画展や普及事業などを開催するごとに作成・掲示してきたポスターを一堂に展示し、11 月 11 日の青淵忌にはトークイベント「展示づくりの魅力を語ろう」を対面及びオンラインのハイブリット形式で開催し、これまでのあゆみを振り返った。

2023 年 1 月 5 日～2 月 26 日には、企画展「渋沢栄一と渋沢喜作の「明治」ー渋沢家「新屋敷」文書から見えてくるものー」を開催した。栄一の従兄・渋沢喜作の生家渋沢家「新屋敷」で 2020 年に発見された喜作の書簡を中心に、郷里の人々との関わりをみながら、「明治」に向き合う二人の思いを探った。

2 月 21 日～3 月 5 日には、本館 1 階ギャラリーロトンダ、青淵書屋において、「渋沢家のおひな様」を開催し、渋沢家のおひな様や道具などを展示した。

3 月 8 日～4 月 9 日には「鮫島純子さん作品紹介～おじいさまとの思い出～」を開催し、2023 年 1 月に亡くなられた鮫島純子氏の祖父・栄一との思い出を描いた作品を展示した。

3 月 18 日～5 月 28 日には「養育院の「院長さん」渋沢栄一 父となり祖父となり曾祖父となり」を開催し、特に保護児童たちとの関係について取り上げ、「院長さん」と慕われた栄一の活動と思いを展示した。

② 渋沢栄一に関する教育普及活動の実施

幅広い層を対象に栄一を学べる博物館として各種の普及活動を行った。

a. 建物解説会

2022年7月～9月にかけて、国指定の重要文化財である晩香廬と青淵文庫の解説会を8回企画し、7回実施(8/13は台風8号接近にともない臨時休館をしたために中止)。それぞれ、栄一の喜寿、傘寿・子爵への昇格祝いに贈られた大正期の建物は、栄一が来客の応接などに活用した建物で諸所に施された意匠などを解説。

b. 青淵忌

渋沢栄一の命日である11月11日を記念し、特別企画「青淵忌」を開催し、映像上映「故渋沢子爵葬儀の実況」、特別解説会「遺言書」を実施。

c. 講演・資料提供など

日本女子大学教養講座(テーマ「栄一のおもてなし」)、東京都北区内の小学校社会科授業「福祉や教育の発展に尽くした渋沢栄一」など、大学や小学校、その他団体による講演会、講座の講師を計57件、担当した。

また、2027年に日米友情人形交換事業100年を迎えることに先駆けて、全国各地で関係イベントが開催され、資料協力、助言、後援、協賛などを行った。

③ 資料収集、整理、代替資料の作成・収蔵庫内の環境維持

栄一やその周辺の人々、栄一に関する書簡、書籍、美術工芸品など(渋沢栄一胸像他)を購入した。また栄一に関する資料の寄贈受入(螺鈿手箱〈栄一書〉他)を行い、所蔵資料の充実に努めた。

写真・フィルムや美術工芸資料の整備では、動画、音声のデジタル化を進めた。資料修復としては、渡辺長男、堀進二作の渋沢栄一像2体や扇子などを対象とした。また、常設展示の展示資料で代替資料がないものについて、今年度は、複製を2点制作した。

虫・黴対策として、資料の燻蒸、収蔵庫・書庫・展示施設など館内環境調査や特別な清掃を専門業者に委託して実施し、環境の維持に努めた。

晩香廬については床調査、シロアリ被害状況の調査及び処置、また、青淵文庫については定期清掃などを実施し、維持管理に努めた。

④ 渋沢栄一関係や博物館活動の調査研究活動

オーラルヒストリーを実施し、渋沢雅英相談役をはじめとする方々の記憶を記録化するとともに所蔵資料の調査を実施し、栄一が編纂した『徳川慶喜公伝』について所蔵資料を中心とした調査研究を行った。また、渋沢栄一の漢詩全308首の現代語訳と注釈の作成を終えた。

所蔵資料のデジタル公開、対応について、他の博物館へのヒアリングも行いながら検討を開始した。

渋沢史料館の事業報告とあわせて学芸員の調査研究成果を示す論稿などを掲載する『渋沢史料館年報 2020 年度』や外部の研究者との研究会の紀要である『渋沢研究』第35号を刊行した。

全国の博物館・資料館への展示協力、外部メディアへの資料協力や助言、様々な年代の方々から幅広い内容の栄一に関わる問い合わせ対応等のレファレンス対応を行なった。

⑤ 『青淵』の刊行

2022 年 5 月号（878 号）～2023 年 4 月号（889 号）：発行部数：3,300 部/月

⑥ 会員総会の開催、支部講演会の支援など

a. 会員総会

新型コロナウイルス感染症の広がりから、2020 年度より会員総会の開催を見合わせてきたが、オンライン開催なども検討したものの、2022 年度も同様とし、2021 年度事業報告・2022 年度事業計画は『青淵』8 月号に掲載し、会員へ報告することとした。

b. 支部の状況（2023 年 3 月末現在）

支部名	個人会員数	団体会員数	支部名	個人会員数	団体会員数
野 田	27	0	香 取	2	0
深 谷	200	25	宇都宮	20	0
岡 谷	2	0	小 諸	1	1
京 都	6	4	氷 見	1	0
仙 台	11	7	山 形	1	0
酒 田	7	0	盛 岡	3	2
秋 田	33	2	海 匝	34	4
茨 城	27	3	白 河	4	0
			合計 16 支部	379 人	48 団体

c. 支部講演会

支部名	開催日	講演内容
深 谷	2022.5.27	大河ドラマ「青天を衝け」で描いた渋沢栄一 講師：菓子 浩 氏（大河ドラマ「青天を衝け」制作統括）
野 田	2022.8.24	「僕達にはキラキラする義務などない」 講師：山田 ルイ 53 世 氏（お笑い芸人 髭男爵）
秋 田	2023.1.19	2023 年の秋田の経済展望 講師：真鍋 隆 氏（日本銀行 秋田支店長）
仙 台	2023.2.2	「夢を叶える生き方」 講師：杉山 愛 氏（元プロテニスプレイヤー） 「今こんなリーダーが必要だ」 講師：福澤 朗 氏（フリーアナウンサー）
深 谷	2023.2.19	「渋沢栄一、パリで奮闘すーフランスでもうひとつの維新ー」 講師：齊藤 洋一 氏（松戸市戸定歴史館名誉館長）

d. 維持会員数・会費収入

(会費収入は千円単位)

年度末	個人会員		団体会員			会費収入 合計
	人数	会費収入	社数	口数	会費収入	
2020	1,316	6,448	253	1,311	13,160	19,608
2021	1,281	6,308	250	1,289	12,930	19,238
2022	1,194	5,910	247	1,266	12,735	18,645

e. 寿杖

1923 (大正 12) 年 4 月 29 日の第 69 回春季会員総会で、満 83 歳の渋沢栄一に第 1 号の杖を贈呈したことに始まり、80 歳以上で申込み頂いた個人会員を対象に「寿杖」を進呈 (費用の一部を本人負担) しており、2022 年度は 5 名に進呈。累計で 2,090 本となる。

⑦ 財団全体の広報など

a. 関連事業

イ. 第 21 回 渋沢栄一賞 (主催: 埼玉県・深谷市・渋沢栄一記念財団)

受賞者

小林 幸雄 氏 (大鵬薬品工業株式会社 特別相談役)

丹羽 公男 氏 (タイム技研株式会社 名誉会長)

福田 秋秀 氏 (株式会社エフテック 最高顧問)

ロ. 第 34 回 アジア・太平洋賞

(主催: 毎日新聞・アジア調査会、協賛: 渋沢栄一記念財団・他)

大賞

山口 信治 氏 (防衛研究所地域研究部中国研究室主任研究官)

「毛沢東の強国化戦略 1949—1976」(慶応義塾大学出版会)

特別賞

ケネス・盛・マッケルウェイン 氏 (東京大学社会科学研究所教授)

「日本国憲法の普遍と特異—その軌跡と定量的考察」(千倉書房)

岡本 行夫 氏 (外交評論家)

「危機の外交—岡本行夫自伝」(新潮社)

井上 正夫 氏 (松山大学経済学部教授)

「東アジア 国際通貨と中世日本—宋銭と為替からみた経済史」

(名古屋大学出版会)

b. 広報・後援・協力

イ. 第 9 回 渋沢栄一クイズラリー

(主催: 飛鳥山王子界限いい店&老舗の会、協賛: 渋沢栄一記念財団)

ロ. 渋沢平九郎プロジェクト

(主催: 渋沢平九郎プロジェクト実行委員会、後援: 渋沢栄一記念財団、他)

ハ. 「全社協 福祉ビジョン 2020」ふくし未来塾 (第 2 期)

(主催: 社会福祉法人全国社会福祉協議会、後援: 渋沢栄一記念財団、他)

ニ. 渋沢栄一ひとづくりフォーラム 2022

(主催: 深谷市、後援: 渋沢栄一記念財団、他)

ホ. 徳川家臣団大会 2022 (主催: 徳川みらい学会、後援: 渋沢栄一記念財団、他)

へ. 第 21 回「論語と算盤」塾

(主催：新都心ビジネス交流プラザ運営協議会、後援：渋沢栄一記念財団、他)

ト. 北区渋沢プロジェクトへの協力

チ. 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会での電子記録の管理についての執筆、発表

リ. 企業史料協議会での電子記録の管理についての講演

5. 事業報告の附属明細書

2022 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。